

《 概要 》

2023年12月19日(火)に学術研究Ⅱ 口頭発表会が実施された。2024年3月に東北大学百周年記念会館川内萩ホールで発表を行う班を除いて、学術研究Ⅱにおいて最後の発表活動となった。どの班もこれまで研究してきたことをまとめ、論理的で理解しやすい発表ができたと思う。学術研究Ⅱでの研究活動は口頭発表会を以って最後となってしまいが、今後はこれまでの研究活動を活かし、後輩へのアドバイスなどに尽力していきたい。

《 各ゼミにおける発表の様子 》

物理ゼミ

各班ポスター発表会からの成長が見られた。考査もあった中で実験を重ね、より論理的に結論付けることができた班が多かった。一方で、担当教員から「発表者は質問者を一度の説明で納得させるような回答を」との助言もあった。この発表会から学んだことを活かして、1年生はより質の高い研究活動を行えるよう励んでほしい。

地学ゼミ

様々な視点からの意義ある質疑応答だった。特に、研究の本質についてや、仮説を疑うことについての質問は有益なものになったと思う。担当教員から、「抽象的で主観的な表現はスライドや発表の中で使うことを避ける必要があり、すべてデータに基づくべき」等のアドバイスをいただいた。

化学ゼミ

前回よりも質問への備えが十分できていた。一方、担当教員方からの講評を通じて、ゼミ内での情報交換を可能にする仕組みを作ることが課題と分かった。また、研究が途中で満足の行く結果が出ていない班も多いため、1年生に引き継ぐなどし、今後の研究で発展させていきたい。

数学ゼミ

TAの方から、研究手法が不適切であるという指摘や研究結果から結論への論理性が見られないという指摘を受け、数学ゼミ全体で研究手法や結論付ける方法が見直されたのではないかと思う。

生物ゼミ

活発な質疑応答が行われており、特に研究の発展性についての質問が多く見られた。担当教員から「研究の成果がよく現れており、データやグラフが多く良かった」と、TAの方からは「仮説の理由が弱いため、先行研究をもっと調べるべき」などのアドバイスをいただいた。

国語ゼミ

どの班もこれまでの反省を踏まえて、しっかりとまとまった発表ができたと思う。しかし、情報過多や本来の研究路線からの脱線が見受けられた。質疑応答では、担当教員からの質問や意見が多く、特に結果のまとめ方の適切さについて多くの指摘をいただいた。今回の発表を活かして、78回生は頑張りたい。

情報ゼミ

皆が真剣に取り組んでおり、質疑応答では、核心を突いた質問や誠実な応答が見られた。また、担当教員やTAの方からは「研究内容が斬新」や「環境に縛られず研究していて良い」という講評があった。



質疑応答の様子

地歴ゼミ

1年生からの意見や質問が多くあり、内容に関する的確な質問もあった。担当教員からも多くの質問をいただいた。全体として主体的に活動に取り組む姿が見られた。

公民ゼミ

以前よりも詳細に説明を行ったり、図表を多く用いたりしたため、理解が深まったのか、鋭く有益な質問が多かった。担当教員方からは、時間超過について指摘されたが、以前から成長したとの評価をいただいた。

英語ゼミ

原稿に頼ることなく内容をよく理解して発表していた班が多く見られた。また、スライドを見やすくするための配色・フォントにおける工夫があり、前回からの成長を感じた。質疑応答では英語での質問にTryしている1年生がおり、2年生からも活発に質問が飛び交った。担当教員方からは、「実用的なテーマが多く、結果を実生活に活用してほしい」などの講評をいただいた。

保体ゼミ

研究方法の適切さについての質問が多かったが、各班が明確な目的・意図を持って臨んでいたため、研究への熱心さが見受けられた。また、仮説を設定するには様々な視点から研究テーマを捉えて、より内容を濃いものにするという指摘を受けた。

音楽ゼミ

質問を受けて、着目していなかった要素と実験結果との関連性に気づき、再検討する必要があると感じた。また、実験モデルを変更して、モデル間の相違点を明確にする必要があると感じた。



発表の様子



発表の様子



発表の様子

家庭ゼミ

質疑応答では、発表時間の都合上省略した箇所やスライドで示さなかった箇所の質問を多く受けた。これに関して、担当教員方からも実験の対象や条件の不鮮明な部分をしっかり示すべきだとの指摘を受けたため、何を優先して伝えるべきかを考えていきたい。

災害研究ゼミ

質疑応答について各班が適切に対応できていたと思うが、時間超過や事前準備の不足も見られた。担当教員やTAの方からは「基本的な災害問題だけではなく、現代で起こり得るデマニュースなどの身近な話題を題材にしているととても面白かった」などの講評をいただいた。

編集後記

これまでの反省を活かしたレベルの高い発表が数多くみられるなど、約1年間の研究を締めくくる集大成として相応しい発表ができたと感じる。ゼミ代表の班は、追加研究とまとめ活動に注力し最後の発表がより良い発表になるように、また選ばれなかった班も個人論文や後輩の研究への指導に尽力してほしいと思う。